

# ●オルテガの言葉●

\*オルテガ「個人と社会-人と人びと-」 A・マイタス、佐々木孝訳 (白水社 1989)より

## ・「人の行動」とは？

～予定計画に従って、世界に働きかけるために世界に没入する。＝存在し続けるために考えること。

・「生」～それ独自の、各人の生（個人的なもの）。絶え間なく続く四つ辻、たえざる当惑である。他にゆずり渡せないもの。「生はひきとめることも、とらえることも、跳び越えることも許さない一つの手に負えぬ流れである。成りつつあると同時に、手の施しようもなく存在することをやめて行く」もの。

## ・「世界」とは？

～予期できない不測の境界。我々個々が生きていくために常に自己を見出す、極めて限定された環境。実際に生きてゆくための私が出会う手段、障害、利便と不都合の総体。

## ・「期待」とは？

～生きるための内燃機関であり、生の内臓だ。第一の本質的機能。

## ・「人の運命」について：

～まずもって行動である。我々は考えるために生きるのではなく、かえってその反対に、存在し続ける為に考えるのである。

## ・「思考能力」について

～人間の天与の才ではなく、むしろ労苦に満ちた、当てにならない、変わりやすい取得物である。

## ・「人間的生」とは？

～他にゆずり渡すことのできないものであるが故に、生は本質的に孤独であり根本的孤独である。

私のすること～つまり私の考えること、感じる事、望むこと～が、私にとってじゅうぶんな意味をもつこと、良い意味を持つことが必要なのだ。

我々は生というものがつねに個人的なもの、環境的で他にゆずり渡すことのできないもの、そして責任を問われるものであることに気づく。

## ・「哲学」について

～哲学とは、ひきこもりであり、自分自身に向かって事故を容赦なくさらけ出すことによって、自分自身の収支決算をすることである。

